道歯技広報

The Bulletin of the Hokkaido Dental Technologists Association

2024 Spring No.30

■巻頭言　「ワーク・ライフ・バランス」
■「第67回北海道歯科技工学術大会」報告
　北海道歯科技工士会　常務理事　石井　友和
■「歯科技工士が考える歯周組織の重要性」　札幌歯科技工士会　木谷　貴昭
■「地域組織会長懇談会報告」　北海道歯科技工士会　専務理事　廣田　高志
■地域組織会長から一言　釧路歯科技工士会　会長　清水　寛
■「Lilac」　旭川歯科技工士会　会長　三宅　和博
■「歯科技工における手話表現・見える言葉」　札幌歯科技工士会　工藤　三重子
■理事会報告
■お知らせ　新型コロナウイルス感染症について/メーリングリスト登録について/
　Facebook　X（旧Twitter）開設について/学術論文募集について
■新入会員紹介/編集後記
■活動・会員特典の紹介

ＰＣ用ホームページ　https://www.dougi.or.jp/top.html
携帯用ホームページ　https://www.dougi.or.jp/keitai.html

表紙 / 巻頭言 /Lilac/ 歯科技工における手話表現・見える言葉 / 編集後記写真　札幌歯科技工士会　海津雅隆

ワーク・ライフ・バランス

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を最近よく耳にするようになりました。仕事と生活の調和を目指し、働き方を変えていこうと提唱されています。法律が変わり「働き方改革」によって労働に関する制度が見直され、仕事だけではなく自分の生活も大切にする社会になってきました。

私自身は、歯科技工士の仕事は好きで技工以外の仕事にもやりがいを感じています。ご指導いただく方々に大変恵まれており、忙しくさせていただいていることにも幸せを感じていますが、この変化する時代の中で自分の現状はどうなのか、将来どうすべきかなど色々考えることがあります。独身の頃は仕事だけに集中することもできましたが、結婚してからは自分一人での生活ではないため、単に仕事だけという訳にはいかなくなり、生活との調和を意識するようになりました。

歯科技工士はよく「夜遅くまで仕事をして、多くの技工をこなしている。」という話をSNSなどでも見かけます。特に一人親方で仕事をされている場合にはそうなりがちなのかもしれませんが、これから歯科技工士を目指す若い方々がそれを聞いて、見て、どう思うのでしょうか。現代の若者（Z世代）は「仕事の優先順位は比較的低い」と言われています。出世や社会的名声や地位を得るよりも安定した暮らしを求めているようです。こうした考えの良し悪しは別として、これが現状なのだと思います。この現状を反映したものが「働き方改革」なのではないでしょうか。

私たちができることは，古き悪しき習慣を次世代に愚痴り押し付けるのではなく、悪しき部分を改善し、時代に合った働き方を示し、次世代が新たな問題に立ち向かえるような環境を作ることでないかと思っています。もちろん、愛情をもって指導や注意を行うなど、時代が変わっても重要な部分はしっかりと受け継がないといけないと思います。

「ワーク・ライフ・バランス」は次世代のためだけではなく、私たち現役の人間が実現しないといけないことなのかもしれません。しかしそうは言っても、現状がすぐに変わる訳ではないので、できることから挑戦していかなくてはならないと思っています。例えば､法律が変わったことをきっかけに補助金・助成金の利用を積極的に検討し、労働生産性を向上する。社内で使用者と労働者のコミュニケーションを図り、女性の歯科技工士も長く働ける環境づくりを目指すなど、今からできることはたくさんあると思います。

進化とは変わり続けることだと思っていますので，私もこれから失敗しながらも挑戦し、私の「ワーク・ライフ・バランス」を実現したいと思います。

第67回北海道歯科技工学術大会　開催報告

公益社団法人北海道歯科技工士会　常務理事　石井　友和

2023年11月18日（土）に恵庭市の緑と語らいの広場「えにあす」において第67回北海道歯科技工学術大会を対面とオンラインを同時に行うハイブリッド形式で開催致しました。

講演Ⅰでは神奈川県でご開業されているi-Dental Labの伊原啓祐先生に「『かたち』と『色』の120分－基礎から学ぶ臨床技工のポイント－」と題してご講演いただきました。伊原先生は16年間の卒後教育機関での教員経験を活かされ、『かたち』と『色』について大変分かりやすく、基本から解説していただきました。講演の中で、「知っていればできる」と言われており、正しく理解し、正しく学ぶことの重要性を教えていただきました。『かたち』では、形態の具体的なポイント、『色』ではシェードマッチングに必要な技術をご教示いただき、明日からの臨床に応用可能なご講演をいただきました。

講演Ⅱでは東京都でご開業されている株式会社ラボコミュニケーションズの佐野隆一先生に『補綴再製をなくすためのアナログとデジタルの視点』と題してご講演いただきました。日常臨床で扱う、寒天アルジネート印象やシリコーン印象の理工学的物性、石膏模型のチェック、シリコーンバイトの扱い方など、基本的な作業工程を正しく行うことが、補綴再製をなくすために重要であると解説していただきました。また、デジタルでの臨床例や取り組みなども示していただきました。最後に、これからの歯科技工業界の課題である、人材不足、資本力、国際競争についてもご教示いただき、今後の歯科技工業界のあり方を改めて考えることができる大変貴重なご講演をいただきました。

伊原先生、佐野先生ともデジタル技工が急速に進む中で、基本の知識・技術が大切であることを教えてくださり、本当に素晴らしい講演を拝聴することができました。

会員研究発表においては、札幌歯科技工士会所属の木谷貴昭氏に「歯科技工士が考える歯周組織の重要性」と題して、軟組織の特性を理解する重要性について症例を交えて発表いただきました。続いて、札幌歯科技工士会所属の四釜一氏に「鋳造から切削加工へ、ミリングチタン床の良さ」と題して、CAD／CAMが進化し精度面の不安定さ及び鋳造欠陥を補えるようになった切削加工への転換について発表していただきました。

今回の学術大会におきましては、千歳歯科技工士会の皆様に多大なご協力をいただき無事に学術大会を終えることができました。厚く御礼申し上げます。今後も会員の皆様と共に、より良い学術大会や研修会の開催に尽力していく所存ですので、北海道歯科技工士会の研修会にご理解とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

●● 歯科技工士が考える歯周組織の重要性 ●●

札幌歯科技工士会　木谷　貴昭

・はじめに

私は９年間大手ラボに勤め、その後院内ラボに勤務し４年が経過し、院内ラボに入職、その後直接患者様に関わることが増え模型上の作業だけではなく、歯周組織の勉強もしなくては、ということから京都で開催されたＫ・Ｍセミナーという歯周組織と審美に特化した講習会に参加した。今回はそこで学んだ内容をもとに行った症例を紹介する。

審美領域において歯間乳頭の見え方が、
かなりの割合で影響する。
Hochmanはスマイル時の歯間乳頭の見え方によりスマイルを分類し、被験者がどのタイプに属するかを調べた。
その結果、被験者の91%がスマイル時に上顎前歯歯間乳頭が見えることがわかった(fig.1)①。

fig.1

内容を踏まえると歯冠が75%以上見えていて、歯間乳頭も見える状態が理想。
ブリッジ補綴であれば、歯間乳頭のマネジメントは必須であると考える(fig.2)。

fig.2

歯間乳頭の存在に影響を与える要因として、加齢による歯槽骨の吸収があるが、
その他歯肉のバイオタイプや歯冠形態が影響する。
テキストの論文によると、歯肉は薄い歯肉より厚い歯肉のほうが歯間乳頭の存在に対して、優位性があると述べている。歯冠形態に関しては、スクエアな歯冠形態のほうが優位性がある。
よって(fig.3)の点線のように歯肉が薄くテーパーな歯冠の状態であると歯間乳頭の存在率が低下する。

fig.3

・ポンティックについて

軟組織を保つ条件は滑沢な表面をもち欠損部歯槽堤の軟組織に対する接触圧は無圧あるいは最小であること、また接触面積が小さいこととされていた。これらの条件より、審美領域では改良リッジラップが支持されていた。しかし、改良されたとはいえ、基底面が凹面で粘膜に接しているため、デンタルフロスが基底面に接触しにくい、これに対しオベイド型と改良オベイド型は凸面で粘膜に接しているため、デンタルフロスによる清掃が容易であり清掃性に優れているといえる。こちらは基底面がジルコニアやセラミックというのが前提である(fig.4)。

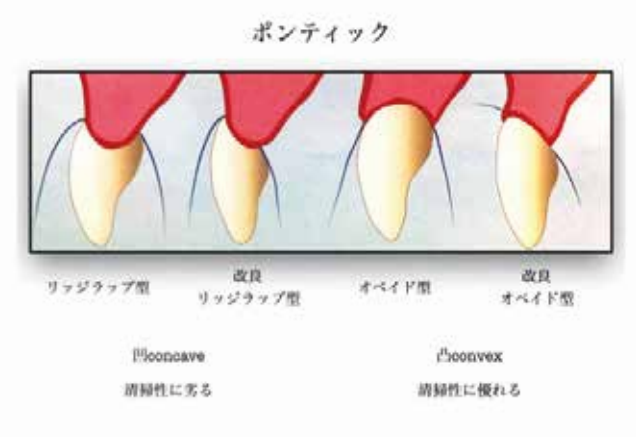

fig.4

オベイド型ももちろん欠点がある。オベイド型の欠点は経年的に、ポンティック歯頸部の辺縁歯肉が退縮した場合、歯頸部辺縁が舌側方向に深く入り込み、その結果影が生じ食渣も停滞しやすく、審美性、機能性に問題が生じてしまう。一方改良型オベイドは歯槽堤粘膜に入り込む凸部の唇側部分が歯根方向に伸びている。この形態であれば、退縮しても陰は生じず、長期的な審美性の維持が可能となる(Fig.5)。

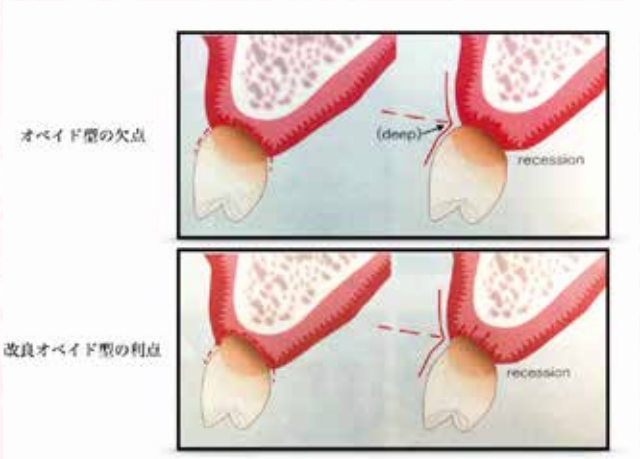

fig.5

ポンティック形態は、改良型オベイドポンティックがよいと言える。以上の内容から歯冠形態やポンティック基底面の形態が審美領域の歯肉形態に大きく影響することがわかる (Fig.6)。

fig.6

・CASE

60代女性 初診時の状態で、歯肉が腫れていたり、スキャロップや辺縁歯肉の位置も非対称になっていた(fig.7)。歯肉の移植が必要と考え、歯肉移植後のWAXUPを行った(fig.8)。

fig.7

fig.8

・プロビジョナル

この段階ではまだ歯間乳頭が上がっておらず、ブラックトライアングルが出来ている状態である。また、ジンジバルスキャロップのラインも左右で非対称になっている。ここからプロビの調整をしていくのだが、歯肉を押し広げるイメージで、少しスクエアな形態にかえていく。また、歯肉を少し退縮させる必要があるため、唇側にレジンを足し歯肉を押していく(Fig.9)。

fig.9

歯肉のバイオタイプの違いによる、歯周組織の変化を利用して、ジンジバルスキャロップを調整する。コンベックス形態にし、歯肉を押して行くと歯肉退縮がおき、コンケイブ形態にすると歯肉のクリーピングが可能となる(fig.10 fig.11②) 。

歯肉縁下のマネジメント

	カウントゥアとバイオタイプ	初期の歯肉反応	二次性の反応
オーバーカウントゥア	スキャロップ状で薄い	歯肉炎	歯肉退縮
	フラットで厚い	歯肉炎	歯肉退縮 隣接面ポケット
アンダーカウントゥア	スキャロップ状で薄い	わずかな歯肉炎 or無し	ロール状歯肉 わずかな炎症 辺縁歯肉のクリーピング
	フラットで厚い	歯肉炎	歯肉の発赤・出血 スポンジ状の歯肉 辺縁歯肉のクリーピング

Nozawa T, Kusumoto H, Tsuruzaki S,Ito K. Biologic height-width ratio of the buccal supra-implant mucosa. Bur J Esthet Dent2006 1(3):208-214.

fig.10

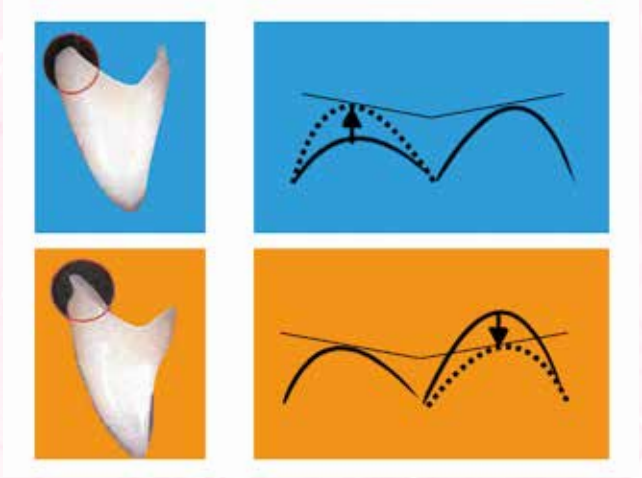

fig.11

歯科医師による歯肉形成とプロビジョナルの調整で歯肉をコントロールし、歯肉が出来上がった状態を示す(fig.12)。

fig.12

チェアサイドからプロビジョナルを預かり模型にトランスファーする。あらかじめ製作してある模型に、プロビジョナルを固定し、ガムを注入した (fig.13)。

fig.13

プロビジョナルをもとにモノリシックジルコニアを削り出し製作したファイナルとなる。ディスクはストローマン社、桜ディスクを使用しステイニングを行った(fig.14)。

fig.14

スマイル時に歯冠が75%以上見えていて、歯間乳頭も見えている状態を示す(fig.15)。

fig.15

・おわりに

前歯のブリッジのケースにおいて、歯間乳頭が審美に影響すること、歯科技工士は模型に合わせてただ補綴物を作るのではなく、ポンティックの形状、歯周組織のことも理解しておかなければならないということを今回の症例を通じて実感した。これらを理解した上で、チーム医療を行うことで、患者様の長期的なＱＯＬを高めることが可能となると強く感じている。この度このような機会を与えて下さった北海道歯科技工士会へ深く感謝の意を示す。

引用文献

①Hochiman MN, Chu SJ Tarnow DP. Maxilary anterior papila dis-play during smiling:a clinical study of the interdental
smile line. IntJ Periodont Rest Dent 2012;32(4):375-383.

②Nozawa T, Enomoto H, Tsurumaki S,Ito K, Biologic height-
widthratio of the buccal supra-implant mucosa.Eur J Esthet Dent2006:1(3):208-214.

2023年度地域組織会長懇談会報告

公益社団法人北海道歯科技工士会　専務理事　廣田　高志

11月11日（土）、北海道歯科技工士会館において2023年度地域組織会長懇談会が開催された。開催するにあたり座長選出を議場に諮ったところ執行部一任との意見を受けて藤王常務理事を座長に選出した。点呼が終わり、開会宣言された後、扇会長の挨拶があり、新型コロナウイルスの感染症対策も第５類に移行し、拡大が収束してきているように思われる。今後も感染対策を講じながら気を引き締めて会務運営を滞りなく執行していきたい。また、次年度に向けての活動方針・学術研修会・北海道歯科技工士会創立70周年記念大会に向けての計画などこの様に対面形式で行う会議では様々な意見交換ができると思っているので、忌憚のない意見を述べていただきたいと挨拶された。その後、議題にうつり2024年度活動方針案を提案し地域組織会長から意見を伺った。次に2024年度各部門事業計画案を協議した。長口副会長よりＳＮＳ委員会を立ち上げて、学術研修会の案内・広報に関するものをFacebookでの発信に切り替えていくと報告された。政氏副会長からは2024年度の学術研修事業について説明があり、各担当地域を決定した。新しい提案として札幌歯科技工士会で開催しているボウリング大会と学術研修会を併催することを協議し了承されたので講師選定・日程調整をしていくと報告した。西川副会長より復職支援について各他団体がどのように行っているか資料を用いて説明があり、地域組織会長から意見を聴き、歯科技工士がどのような形で復職支援を行えるか検討していきたいと報告した。次に2024年度予算案を廣田専務理事より報告した。参与会の増員に関する規定および内規改正（案）について扇会長より説明があり、社員総会に協議事項で提出し協議して頂くと報告された。

次に任期満了に伴う道技代議員選挙について説明があり、選挙までの日程を報告した。

扇会長より道技創立70周年記念事業に向けてどのような形で行うか提案があった。協議の結果、開催に向けて実行委員会を立ち上げ、各地域からも委員会に参加していただくように要請する事、また日程等については検討して報告する事となった。

報告事項にうつり、2023年度各部門事業中間報告を各担当常務理事から報告、

2023年度会計収支決算中間報告を長口副会長より報告された。

最後に2023年度第12回日技社員総会報告を扇会長より説明があった。札幌歯科技工士会より提出された感染症対応地方創生臨時交付金に関する質問をした件について、日技社員総会において質疑応答の内容を、日本歯技にも掲載されているが今一度詳細に報告された。

座長より議題および協議事項・報告事項すべてが滞りなく終了されたとし閉会宣言がされ2023年度地域組織会長懇談会が終了した。

●●地域組織（支部）のあるべき姿とは…？●●

釧路歯科技工士会　会長　清水　　寛

新型コロナウイルス感染が昨年５月より「５類感染症」と位置づけられ、各地域組織でも徐々にコロナ以前に近い活動状況と成って来ている事と思います。釧路歯科技工士会においても一昨年の「第163回北海道歯科技工学術研修会」を皮切りに活動を再開し、今年１月には４年振りに漸く新年交礼会も開催する事が出来ました。

さて、歯科技工士会の永遠のテーマとも言える「組織拡充」・・・皆さんの地域ではどの様に取り組まれていますか？その一環と言う訳では無いのですが、昨年釧路歯科技工士会では会員へのアンケート結果を踏まえ、あるイベントを企画開催しました。特に若手会員にも興味を持って貰える様、内容を工夫して・・・それが「飲みながら勉強会」。飲み会の中で参加者が15分程度のスライド発表をする・・・と言う、所謂スタディグループ的なノリ。今回は釧路市内のバーを貸切りで使わせて頂き、若手会員中心に20名程の参加者で開催。初回と言う事で、私と若手役員の２人でスライド発表を。２時間程度ですが皆で飲んで食べて楽しい時間を過ごしました。今後はこの「飲みながら勉強会」を年２回程度のペースで継続し、会員(特に若手の)に“自分達の為のイベント“として定着して行く事を目指します。

賛否両論あるかとは思いますが、会員数を大幅に増やす事は今後も非常に困難を伴うのは必至であり、会員に少しでも会に属する意義を実感してもらうには“自ら企画、参加する自分たちの為のイベント”を実践し続ける事が会員の定着の為には重要で、これが退会者を１人でも減らす事に繋がるなら、これも有る意味「組織拡充」の活動ではないでしょうか？

常々私は「歯科技工士会　会員」である事の意義を先ずは我が身をもって示し続ける事が地域会長の責務と考えて居り、又これが自身の「精一杯」でもあると感じています。これにより会員自身が少しでも「自分達の会」であるという認識を持って貰えるなら本当に嬉しいですよね…。

さて…皆さんはどう感じて居られますか？

Lilac

旭川歯科技工士会　会長　三宅　和博

多くの制限をもたらしたコロナ感染症ですが、昨年５類へと移行され2024年新たな年を迎えました。

この度、旭川歯科技工士会では、３年ぶりに新年会を開き多くの来賓の方々を迎えることができました。思うことは、私たちは本当に多くの方々に支えられているということです。コロナによってZOOM会議やセミナーの聴講など進んだ面も多々ありましたが、大切だったのはやはり「人との繋がり」です。これは、人を育て、助け、助けられ、伝え、成長してゆく大きな力となります。今、歯科技工士会会員の減少が悩みの種です。メリットがないという言葉をよく聞きます。歯科技工士会としてメリットのあるものにしなければならないのは勿論ですが、与えられるより、声を上げ団結したほうが叶えられると信じたいと思います。

歯科技工士の不足も問題です。働き方改革関連法が施工され、建設・運送業の人手不足という2024年問題として取り上げられていますが私たち技工業界でもこの基準をクリアできるのでしょうか？時間外労働の上限、有給休暇の消化、男性の育児休暇は、給与は？これらが改善されたなら歯科技工士不足も解消されるでしょう。そのためにも、歯科医療の一助となる社会貢献を大義とする歯科技工士その認知と評価をあげていかねばならないと思います。また、潜在歯科技工士の復職支援策も道技で考えられているようですので、合わせてその受け皿も確保したいところです。昨年旭川には、２名の新人歯科技工士が就業されました。彼らの今後を応援していければと思います。

最近ではCAD/CAM技工も一般的になり、新しくPEEK冠が保険の適用となりました。また企業のM＆Aや技工所の提携など業態の変化がスピードを増しています。今後ますますデジタルのラボとアナログのラボとの格差は広がり、技工業務の歯科技工士の偏りも考えられます。これは技工業界の発展の第一歩と歓迎すべきでしょうが、渦中にいる私たちは自分を守るためにも今こそ、人と繋がり業態の変化に対応していかなければならないと考えます。

日技１月号の会報に「日歯と日技、両会の協力体制を語る」新春特別対談が掲載されていました。具体的な活動はこれからのようでしたが、歯科業界の諸課題の解決のために経済環境の改善が語られていました。今後の活動や協力に期待し、私たち地域組織も多くの人と議論し応援していきましょう。

旭川歯科技工士会新年会

歯科技工における手話表現・見える言葉

札幌歯科技工士会　工藤　三重子

歯科技工士が製作する技工物は口腔内で機能し生体とも調和した製作物が求められています。研修会などで口腔内が良好な状態を生み出している補綴物のスライドを見る度に歯科技工士の存在意義を感じることができます。

今回は、「生体反応」と「口腔環境」ご紹介します。「環境」の手話表現は別にあるのですが、今回は手話表現を「口腔状態」と表現しています。

生体反応		口腔環境	
口形：せいたい・はんのう		口形：こうくう・かんきょう	
片手掌で、上体に円を描く。 手話表現→（身体）	左掌を右人差し指で前方に弾く。 手話表現→（反応）	人差し指で口の周り円を描く。 手話表現→（口）	両掌を前に向け逆方向に上下交互に。 手話表現→（状態・状況・様子）

2023年度北海道デフ歯科技工士協議会主催歯科技工用語手話研修会は10回開催されました。2024年度も開催予定です。

他にオンラインで日曜日19時より「歯の手話フリートーク」は希望者のみで行っています。詳しくは北海道歯科技工士会にお問い合わせください。

理　事　会　報　告

2023年度　第６回理事会議事録

日　時　　2023年10月14日（土）　18：00～19：00
場　所　　北海道歯科技工士会館
1　会長挨拶
　最近の戦争など不安定な国際情勢のなか、エネルギーの高騰などが懸念される。歯科技工業界においても、どのような影響があるか注視していきたい。今回の理事会は地域組織会長懇談会に向けて重要な議案が続くので、しっかりと確認し進めていただきたいとの挨拶があった。
2　承認事項
事業および派遣役員承認の件……【承認】
入会者及び退会者承認の件……【承認】
道技役員選挙管理委員選出承認の件……【承認】
3　報告・協議事項
(1)　全般
ア　2023年度地域組織会長懇談会議事日程（11月11日開催予定）について報告。
イ　2024年度各部事業計画(案)について報告。
ウ　2023年度各部事業報告(中間)について報告。
エ　2024年度収支予算（案）について報告。
(2)　生涯研修
ア　第67回北海道歯科技工学術研修会(千歳)（2023年11月18日）タイムスケジュールについて報告。
イ　第67回北海道歯科技工学術大会予算案(千歳)について報告。
ウ　北海道障がい者歯科技工研修会（実技）（2023年10月28日）プログラム・見積書について報告。
エ　166回北海道歯科技工学術研修会報告書・顛末書について報告。
オ　166回北海道歯科技工学術研修会決算書（案）について報告。
(3)　広報
ア　ホームページの更新について報告。
イ　道歯技広報29号のレイアウトについて報告。
ウ　道技X（旧Twitter）の更新について報告。
(4)　総務
ア　2023年度第５回理事会議事録について報告。
イ　2023年度離島歯科診療班派遣事業について報告。
(5)　財務
９月期の執行状況について報告。
(6)　就労対策
９月末組織現況について報告。
(7)　その他
ア　日技2023年度第５回理事会について報告。
イ　厚生労働省「令和５年度歯科技工料調査」協力依頼について報告。
ウ　保健福祉部「北海道歯・口腔の健康づくり8020推進週間」実施要項について報告。

2023年度　第７回理事会議事録

日　時　　2023年12月３日（土）　18：00～19：00（Web会議）
1　会長挨拶
　第67回の学術大会も終了する事ができた事、また本学会がきっかけで新入会員があった事は、担当部署の成果だと評価する。さらなる高みを目指す一手法として、今後の報告事項に関して改善をするという目線で検証をしていきたい。具体的には、「できたかどうか後で検証できる」、「数字が入っている」、「責任者が明確である」等のチェックを共有したい。との挨拶があった。
2　承認事項
事業および派遣役員承認の件……【承認】
入会者及び退会者承認の件……【承認】
3　報告・協議事項
(1)　全般
2023年度地域組織会長懇談会（11月11日開催）について報告。
(2)　生涯研修
ア　第67回北海道歯科技工学術研修会(千歳)（2023年11月18日開催）の報告書・顛末書・決算書について報告。
イ　障がい者歯科技工士研修会（実技）（2023年10月28日）について開催後の報告・決算書について報告。
ウ　第167回北海道歯科技工研修会（旭川）（2024年２月17日）について、プログラム・予算案について報告。
エ　2024年度各研修会日程案について報告。
(3)　広報
ア　ホームページの更新について報告。
イ　道歯技広報30号のレイアウトについて報告。
ウ　道技X（旧Twitter）・Facebookの更新について報告。
(4)　受託技工
期中適用CAD/CAM冠講習セミナー（2023年12月９日）のハイブリット研修会開催について報告。
(5)　総務
ア　2023年度第６回理事会議事録について報告。
イ　2023年度優秀学生表彰について、各歯科技工士養成校に対し推薦依頼文を発翰したと報告。
ウ　2023年度第２班離島巡回診療に対する歯科診療離島派遣事業の報告書（焼尻島・天売島）について報告。
(6)　財務
11月期の執行状況について報告。
(7)　法規
ア　道技役員選挙管理委員会設置の件について報告。
イ　参与会規約改正（案）について報告。
(8)　就労対策
11月末組織現状表について報告。
(9)　その他
ア　日技2023年度第６回理事会について報告。
イ　日技代議員中央選管地域選挙管理者選任について石井常務理事に選任したとの報告。
ウ　日技医療機関に対する光熱費高騰への支援を目的とした「重点支援地方交付金」の活用等について報告。
エ　日技厚労省歯科保健課「年収の壁・支援強化パッケージ」に関する周知依頼ついて報告。
オ　道庁の立ち入り検査「通常検査」（2024年１月25日）について報告。

お 知 ら せ

新型コロナウイルス感染症について

公益社団法人北海道歯科技工士会ホームページにて、情報を適宜掲示しています。 https://dougi.or.jp

北海道歯科技工士会メーリングリスト登録について

公益社団法人北海道歯科技工士会は、メーリングリスト構築並びにウェブを使ったセミナーを開催しております。まだ登録をされていない方は、公益社団法人北海道歯科技工士会ホームページにて、登録をお願いいたします。
https://dougi.or.jp

北海道歯科技工士会ホームページにおける会員ページへのログイン方法について

会員専用ページへのアクセスは、ログインフォームよりユーザー名とパスワードを入力しログインしていただくことで閲覧が可能となります。ユーザー名とパスワードは共に会員番号となっていますので、会員番号をご入力のうえ、ログインしてください。

公益社団法人北海道歯科技工士会 Facebook、Instagram、X 公式アカウントのお知らせ

公益社団法人北海道歯科技工士会は、Facebook、Instagram、X の公式アカウントを開設しています。本会に関わる情報を発信しています。最新の研修会案内も投稿します。是非、北海道歯科技工士会のフォローをお願い致します。

学術論文の募集について

公益社団法人北海道歯科技工士会は、歯科技工技能水準の向上と安全で安心な歯科補てつ物等の提供等により道民の健康増進に寄与するための公益事業として「学術優秀論文表彰」を行っております。下記のとおり「学術論文の募集」を行いますのでご応募下さい。

■目　　的：歯科技工士ならびに歯科技工士学生の学術研鑽意欲の向上を図る目的で、応募のあった中から最優秀論文を選考し表彰する。
■対　　象：北海道で就労している全ての歯科技工士および北海道内の歯科技工士養成機関の本科学生および専攻科等の学生。
■論文内容：歯科技工技術知見に係わる全般で、文字数および図表等の枚数に制限はありません。
■募集期間：2024 年 1 月～2024 年12 月まで。
■選考方法：応募期間中に寄せられた論文は、外部選考委員も含めた 3 名の選考委員によって最優秀論文を選考、決定します。
■副　　賞：最優秀論文受賞者には、さらなる学術研鑽を積まれるように副賞を授与します。
■選考委員
【外部選考委員】 北海道大学大学院 歯学研究科 横山 敦郎 教授
北海道医療大学 歯学部 越野 寿 教授
【内部選考委員】 公益社団法人北海道歯科技工士会 扇 照幾 会長
■お問い合せ先：公益社団法人北海道歯科技工士会　事務局
〒001-0037 札幌市北区北37 条西 4 丁目 3 - 8
TEL（011）717-7155　　FAX（011）717-6954
e-mail　dougi@abelia.ocn.ne.jp

公益社団法人　北海道歯科技工士会
活動・会員特典紹介

講習会・研修会の開催

厚生労働省後援の「歯科技工士生涯研修認定」学術大会(年1回)学術研修会(年3回)をはじめ、実技研修会・各セミナーを開催しています。
(Webによるハイブリッド開催も多数行っています。)
会員は基本受講料1,000円で参加できます。
(卒後3年以内の会員は無料)

情報提供

日本歯科技工士会が発行する「日本歯技」(毎月)のほかに北海道歯科技工士会が「道歯技広報」(年3回)を発行しています。
歯科技工に関わる最新の情報をホームページの会員限定ページやX(旧Twitter)にて、随時、情報発信しています。

歯科技工士仲間や関係団体との交流

各地域歯科技工士会において、地域歯科医師会・歯科衛生士会との共同行事や歯の健康週間をはじめとする市民貢献イベント等、様々な行事やボウリング大会・ゴルフ大会等、レクレーションが行われています。

厚生労働省や関連団体との交渉窓口

歯科技工業界のさまざまな問題を交渉し、歯科技工の職業・生活水準向上のため、全力で取り組んでいます。また、診療報酬改定などの情報をタイムリーに発信しています。

慶弔制度の充実

長寿祝金・出生祝金・死亡弔慰金・高度障害見舞金・火災見舞金・災害見舞金など慶弔制度が充実しています。

お近くに、まだ未入会の歯科技工士の方がいらっしゃいましたら是非ご案内ください。

ホームページ　https://dougi.or.jp

公益社団法人 北海道歯科技工士会

Facebook・Instagram・X公式アカウントのフォローお願いします。

発行／令和６年３月8日　発行所／公益社団法人　北海道歯科技工士会　〒001-0037　札幌市北区北37条西４丁目３-８　ＴＥＬ　011（717）7155
発行人／扇　照幾　編集人／村上　珠緒　印刷／橋谷印刷